

19	官版独逸単語篇		
	AG-19	文久2(1862)	洋書調所編
	我が国最初のドイツ語辞典(単語集)。		

◆ 洋書調所の編集による我が国最初のドイツ語辞典。総ページ49、両面木版刷り25丁の小部な和綴じ本である。収録単語は1879語。ただし、訳語は付けられていない。その大半は、名詞もしくは名詞相当語であり、それらには定冠詞または不定冠詞が必ず付けられている。各語は、季節、天候、飲食物、家族、風俗、学術等、22の項目に分類・排列されている。本書がどのような辞典から語彙を採ったものかは明らかではない。また、編者も不明である。この単語集は実用的なものとはいえないが、幕末に刊行された官版のドイツ語の語学書としては唯一のものである。

◆ 当館所蔵本(静岡学校の印記をもつ)には、最初から100語に訳語が朱で書き込まれている。おそらく、当初はすべての単語に訳語を書き入れるつもりであったのが、いざ入れる段になって困難を覚え、そのままにしたものと想像される。なお、早稲田大学中央図書館所蔵の同じ版本には、1～37ページまで千数百語の単語に毛筆による訳語が書き込まれているという。

* マイクロフィルムあり。

20	Die Ersten Lectionen des Deutschen Sprachunterrichts		
	AG-16	明治3(1870)	大学南校編
	『官版独逸単語篇』に次いで我が国で刊行されたドイツ語入門書。		

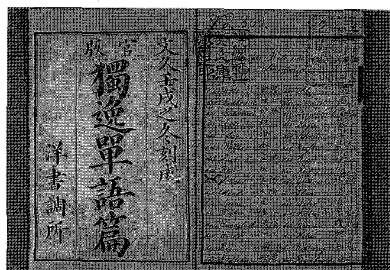
◆ タイトルの日本語訳は「最初のドイツ語講義」である。『官版独逸単語篇』に次ぐ我が国で刊行された2番目のドイツ語学習書。副題の末尾に「von Daigaku-Nanko」とあるように、本書は大学南校(東京大学の前身の一つをなす、明治初期の官立洋学教育機関。蕃書調所→開成所を起源とする)でドイツ語をはじめて学ぶ学生用に作られたものである。第1部と第2部からなり、第1部(1～8ページ)には亀の子文字の字母(音を表記する母体となる字)と綴字、第2部(1～24ページ)にはドイツ語、ラテン文字、単文、数詞などが記されている。

なお、当館は、大学南校が編集したドイツ語学習書として、本書の他に“Deutsche Lese- und Übungsbuch”「独語読本兼演習本」(AG-18)を所蔵している。

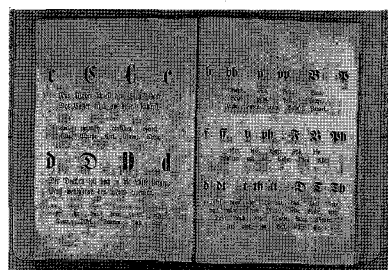
◆ 当館所蔵本には「静岡師範学校」の印記がある。

* マイクロフィルムあり。

<参考資料> 『日独文化人物交流史 ドイツ語事始め』(215-423)



19 官版独逸単語篇



20 最初のドイツ語講義